

第3回さっぽろ連携中枢都市圏関係首長会議

日 時：令和3年10月29日（金）15:30～

場 所：札幌パークホテル3階パークホール

1 開 会

○小角局長：

ただいまより第3回さっぽろ連携中枢都市圏関係首長会議を開催させていただきます。

本日はご多忙の中ご臨席を賜りまして、誠にありがとうございます。本日の進行を務めさせていただきます札幌市まちづくり政策局長の小角でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

本日の進め方でございますが、お手元の次第でございますとおり、札幌市より昨年度の連携事業の実施状況や、本年4月及び9月に変更させていただきました「さっぽろ連携中枢都市圏ビジョン」の概要、昨年度の本会議においてお示しさせていただきました「さっぽろ連携中枢都市圏の今後の方向性」等を踏まえた新たな取組のほか、今後のスケジュール等についてご説明させていただきます。また、本日の会議におきましては、恵庭市様、南幌町様から議題のご提案もいただく予定となっております。その後、皆様と闊達な意見交換を行わせていただければと、そのように考えております。

では、開会に当たり、札幌市長・秋元克広よりご挨拶を申し上げます。

○秋元市長：

開会にあたりまして一言ご挨拶申し上げます。皆様、本日は大変お忙しいところご臨席賜りまして、誠にありがとうございます。また、北海道からは佐々木地域振興監様にオブザーバー出席をいただいております。ありがとうございます。

さて、この会議でございますが、私ども札幌市を含めまして12の市町村から、さっぽろ圏連携中枢都市圏の形成をさせていただいているところでございますが、皆様方と様々な形で議論を進めさせていただきまして、この会議は今年で3回目ということになります。昨年は、さっぽろ連携中枢都市圏における今後の方向性ということにつきまして、都市圏ビジョンに掲げます3つの重点施策、これを時代に即した柔軟な対応ということについて、ご提案させていただきまして、皆様からご意見を頂戴したところでございます。

今回につきましては、昨年度の議論を踏まえまして、その取組についてまずは情報共有をさせていただきたいと考えております。加えまして、連携中枢都市圏の構成市町村でございます恵庭市さん、それから南幌町さんからも、ご提案をいただきまして今後の圏域の発展に向けた議論を進めさせていただけると考えているところでございます。本日は、限られた時間ではございますけれども、忌憚のないご意見を頂戴し、これからの圏域の発展をしっかりと進めていけるよう努めてまいりたいとこのように考えているところでございますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

○小角局長：

ありがとうございます。

それでは、次第に入ります前に配付資料の確認をさせていただきます。本日皆様のお手元にお配りしておりますのは、次第、出席者名簿、座席表、資料1から7、これに加えて本年9月に変更いたしました「さっぽろ連携中枢都市圏ビジョン」の冊子について配

付させていただきます。

本日のご出席者様につきましては、大変恐縮ではございますが、配付いたしました出席者名簿をもってご紹介に代えさせていただきますたく存じます。

2 資料説明

○小角局長：

では、次第に基づきまして、まずは札幌市まちづくり政策局政策企画部長の浅村から、資料に沿って昨年度の連携事業の実施状況や、今年度変更した「さっぽろ連携中枢都市圏ビジョン」の概要、「さっぽろ連携中枢都市圏の今後の方向性」等を踏まえた新たな取組のほか、今後のスケジュール等まで、資料1から5を用いてご説明させていただきます。それでは、浅村部長、お願いします。

○浅村部長：

政策企画部長の浅村でございます。本日はよろしく申し上げます。お配りした資料について、順にご説明いたします。

まず、はじめに、資料1「さっぽろ連携中枢都市圏の推進体制に関する要綱」をご覧ください。

本会議については、第1条の末尾にございますとおり、さっぽろ圏の持続的な発展に寄与することを目的として、第2条に基づき、開催させていただいておりますので、ご報告させていただきます。

次に、さっぽろ圏における昨年度の連携事業の実施状況等についてご説明いたします。

資料2をご覧ください。

上段にありますとおり、昨年度につきましては、さっぽろ連携中枢都市圏ビジョンに掲げる全59指標のうち、「達成済み」となったのは5割程度に留まったものの、新型コロナウイルス感染症の影響を除けば、8割以上が「達成済み」となり、コロナ禍において、概ね良好な水準にあったものと考えてございます。

また、中段にございますとおり、達成済みの主な事業といたしましては、「創業の促進」や「文化的な教育活動の充実に向けた取組の推進」のほか、「圏域外からの移住促進」や「さっぽろ圏人材育成・確保基金の造成」などがございます。

ただいまご紹介差し上げた、それぞれの事業の具体的な実績について、補足させていただきます。

まず、「創業の促進」につきましては、スタートアップとの協働により、圏域内の地域・行政課題の解決を目指す、行政オープンイノベーションプロジェクト、「Local Innovation Challenge HOKKAIDO」(ローカル・イノベーション・チャレンジ・ホッカイドウ)におきまして、千歳市様におけるマイクロツーリズムや新しい観光サービスに向けた取組や、新篠津村様におけるスマート農業の推進などに係る取組を採択し、実証実験を行ってまいります。

また、「文化的な教育活動の充実に向けた取組の推進」といたしましては、北広島市様、石狩市様をはじめとする圏域内の小学6年生を札幌コンサートホール Kitara（キタラ）に招待いたしまして、本格的なオーケストラ演奏の鑑賞機会を提供する「Kitara（キタラ）ファースト・コンサート」のコロナ禍による中止に伴う代替措置として、札幌交響楽団等の協力により、各学校の授業の一環としてご活用いただける、指導案付きの教材DVDを制作のうえ提供させていただいたところです。

さらに、「圏域外からの移住の促進」といたしましては、コロナ禍で関心が高まっているとされる、地方移住の機運を逃さぬよう、今年2月にオンラインによる移住フェアを開催いたしました。

加えて、「さっぽろ圏人材育成・確保基金の造成」につきましては、パートナー企業様関連といたしまして、あいおいニッセイ同和損害保険株式会社様からのご寄附を含め、目標額の約2倍である約1,900万円をいただきまして、小樽市から長沼町まで圏域全体を対象に、SDGsに資する人材の育成や、奨学金返還支援を通じた人材の確保などの事業を含む「さっぽろ圏『ひとづくり』プロジェクト」を展開してございます。

一方、「MICE誘致の推進」や「にぎわいの創出」「職員研修等の合同実施」など、いわゆる「人が集まる」という要素が強い事業については、達成が叶わなかったものもございますが、実施方法の工夫も行いながら、引き続き、推進することができればと思っております。

最後に、下段にございます、「3つの役割における重要業績評価指標」につきましては、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、低調ではありますが、その緩和ないしは維持・向上に向け、引き続き、皆様のご協力を賜ればと思っている次第でございます。

次に、資料3に移ります。本年4月及び9月に変更いたしました、「さっぽろ連携中枢都市圏ビジョン」の概要について、その変更点を中心にご説明をいたします。

まず、資料表面の左上段にございますとおり、「まち」や行政同士の連携のみならず、「ひと」や「企業」もつながることで、新たな未来を生み出すという、連携の発展の象徴として、昨年度、新たなロゴマークを作成してございます。

次に、右下段にお移りいただきまして、今年度の連携事業としては、昨年度より4事業増加の計51事業であり、事業費見込額全体としては、昨年度より4億円弱増加し、約56億円となっております。

ご参考までに、圏域形成初年度の2019年度との比較で申し上げますと、連携事業数は40事業から51事業に増加、事業費見込額は約44億円から3割程度増加しており、圏域形成以降、連携事業数、事業費見込額ともに着実に増加している状況でございます。

続きまして、裏面を御覧ください。

2021年度におきましては、右側に赤字でございますとおり「公立夜間中学の共同活用に向けた取組の推進」、「道内における関係人口の創出に向けた取組の推進」、「地域公共交通の維持・向上に向けた取組の推進」、「自治体行政のスマート化に関する検討」の4つの連携事業を追加させていただいたほか、その他の連携事業の内容についても所用の変更を行

ったところでは。

このうち、「道内における関係人口の創出に向けた取組の推進」につきましては、昨年度、江別市様などを対象に、まちづくりに関する意見交換等をオンラインで行った「さっぽろ圏ふるさと応援隊」の取組を、今年度より、連携事業として位置付けさせていただいたものでございます。

また、「公立夜間中学の共同活用に向けた取組の推進」につきましては、本年6月に、岩見沢市様と札幌市の間において、「教育・文化・スポーツ」に関する取組を追加する旨の連携協約の変更を行わせていただいたことで、圏域内全市町村の連携により、取組を進めさせていくこととなっております。

続きまして、「さっぽろ連携中枢都市圏の新たな取組」についてご説明いたします。資料4をスライドに投影させていただきますので、適宜御覧ください。

こちらは、昨年度の本会議においてご提示させていただきました資料でございます。ご案内のとおり新型コロナウイルスの感染拡大等を踏まえ、下段緑枠の記載のとおり、「時代に即した重点施策の推進」として、3点を掲げさせていただいたところです。本日は、この3点の推進に当たり、本圏域において企画・実施等をさせていただいております取組の一部をご紹介します。

まず、「圏域内や道内の循環の更なる活性化により、より魅力・活力があふれる圏域へ」でございます。

こちらにつきましては、昨年度の本会議において、各首長様からの議論にも上がりました「道の駅」などの活用も含め、先ほどご紹介差し上げました連携事業「創業の促進」の一環として、スタートアップ企業と協働し、レシート買取アプリを用いた周遊活性化策を企画させていただいているところでございます。

具体的には、「道の駅」などのレシート画像をアプリ上で登録して応募できる、いわば、レシートをスタンプの代わりとして用いた「(仮称) さっぽろ圏巡って買って応援キャンペーン」を本年秋以降に展開させていただく予定となっております。

本キャンペーンにつきましては、ご応募いただいた方に、圏域内各市町村の特産品等をプレゼントする方向で調整させていただいておりますので、引き続き、ご協力の程よろしくお願いいたします。

続きまして、「子どもや若者の多様な教育・体験機会を確保し、将来を担う人材が育つ圏域へ」でございます。

こちらにつきましては、昨年末頃から、道内初の公立夜間中学である「札幌市立星友館中学校」の通学範囲を圏域全体とするための協議を圏域内全市町村により本格化させていただきました。

このような皆様のご協力によりまして、来年4月の開校時から、圏域全体を通学範囲とするための体制を構築し、今年の夏には、学校説明会やシンポジウムを開催させていただいたところでございます。

続きまして、「厳しい経済・財政状況でも、住民が安全・安心に充実した暮らしを送るこ

とができる圏域へ」でございます。

こちらにつきましては、圏域形成初年度の本会議におきまして、前当別町長の宮司様よりご提案をいただきましたことをきっかけとして、昨年8月以降、圏域内全市町村により構成いたします、地域公共交通に関する実務レベルのタスクフォースで議論を深めさせていただき、実現に至ったものでございます。

具体的には、今年3月、圏域内全市町村長の連名で、北海道知事様に対し、本圏域を対象とする「地域公共交通計画」の共同策定に関する要請を行わせていただき、現在、さっぽろ圏と北海道が連携いたしまして、計画の策定に向けた協議等を本格化させております。

今後については、今年中を目途に、国交省の補助事業の申請を行い、来年度以降、計画策定のための調査事業に着手させていただく予定でございますので、引き続き、皆様のご協力を賜ればと思っております。

最後に、今後の取組の1つといたしまして、圏域内12市町村で活用できる共通ポイントアプリ「さっぽろ圏公式ポイントアプリ」をご紹介します。

このアプリは、国交省の実証事業のスキームを活用して開発したもので、「まち」や「暮らし」を良くする多彩な機能を備えております。

特に、「SDGs行動クエスト」では、SDGs行動で毎週100ポイントが付与されるなど、本圏域の1つの重要な視点である、SDGsの推進にも資するものと考えております。

また、付与されたポイントにつきましては、WAONポイントに変換できるほか、各市町村が行う「まちづくり」等への寄付も可能としていく想定でございます。WAONとの連携につきましては、この会の後段の意見交換会において、イオン北海道株式会社様からのご紹介も予定しているところです。

その他の機能についても、順次追加搭載していく予定でございます。このアプリが圏域住民の皆様の生活に根差したスーパーアプリとなっていくことができればと考えておりますので、引き続きよろしく願いいたします。

次に資料5に移ります。最後に、さっぽろ圏における今年度のスケジュールについてご説明いたします。

今年度におきましても、昨年度同様、本日の首長会議のほか、引き続き定期的な実務者会議やビジョン懇談会での議論等を踏まえながら、連携した取組を更に推進するとともに、「さっぽろ連携中枢都市圏ビジョン」についての必要な変更を行ってまいります。

また、中段にございますが、現行の「さっぽろ連携中枢都市圏ビジョン」は、2023年度末をもって、計画期間が終了することから、来年度以降、第2期ビジョンの策定に向けたご協議等をさせていただければと思っております。ご協力方よろしく願いいたします。

このほか、下段にございますが、札幌市におきまして、副市長を筆頭といたしました、札幌市連携中枢都市圏推進本部を中心に、さっぽろ圏における取組を全庁的に推進し、引き続き連携中枢都市としての役割を積極的に果たしていきたいと考えております。

私からの資料説明は以上となりますが、本会議におきましては、冒頭にもアナウンスさ

せていただきましたとおり、この後、恵庭市様、南幌町様からの議題のご提案もごさいますので、引き続きよろしくお願ひいたします。

長くなりまして恐縮ですが、私からは以上となります。

3 議題提案（恵庭市、南幌町）

○小角局長：

それでは続きまして、連携市町村からの議題の提案に移らせていただきたいと存じます。まず初めに、恵庭市・原田市長様、議題のご提案をお願ひいたします。

○原田市長：

恵庭市の原田でございます。貴重なお時間をいただきまして、ありがとうございます。本市からは、「緑化フェアの開催をきっかけとした域内観光の推進について」ご提案いたします。どうぞよろしくお願ひいたします。

初めに、当市で来年夏に開催されます「全国都市緑化北海道フェア ガーデンフェスタ北海道2022」の概要についてご説明いたします。緑化フェアは、昭和58年以降、全国で毎年開催されている、花と緑に関する国内最大級のイベントであります。北海道では、札幌市が昭和61年に百合が原公園をメイン会場に開催しておりまして、その後北海道での開催は恵庭市が2回目ということになります。これまでは大都市、大きな規模の都市での開催でありまして、恵庭のような7万人程度の都市での開催は初めてということになります。今回は、「恵みの庭を 人がつながる北の大地から。」を開催テーマに、来年6月25日から7月24日までの1か月間の開催を計画しているところであります。

メイン会場となりますのは、国道36号沿いの、道と川の駅「花ロードえにわ」があるのですが、そこに隣接して昨年11月にオープンしたばかりの、花の拠点「はなふる」がメイン会場となります。道と川の駅「花ロードえにわ」のちょうど裏側がガーデンエリアでありまして、そこがメイン会場ということになります。

このエリアでは、人気の農畜産物直売所「花野菜（かのな）」ですとか、あるいは今建設中で来年オープンを予定しておりますスターボックス、また来春にはホテルの開業も予定しておりまして、こういった施設の集積がなされているところであります。

このガーデンエリアがメイン会場になるわけですが、特に北海道を代表する12名のガーデナーが趣向を凝らして設計したガーデンエリアは、7つのテーマガーデンで構成されておりまして、自然の豊かさや変化を楽しむことができます。多くの道内のガーデナーが来ていますけれども、上川、旭川の上野ガーデンでありますとか、あるいは十勝の千年の森をデザインした方々に庭を造っていただいております。

緑化フェア期間中は、協賛市町村の飲食物販ブースでありますとか、自治体出展の庭園エリアもごさいます。そうした中で道内市町村の皆さん方のPRのほか、花や緑に直接触れることができるワークショップなど、圏域住民の皆さん方に楽しんでいただけるような花と緑のイベントを様々、現在企画しているところであります。

開催期間中の来場者はおよそ30万人を見込んでおりまして、道内外からお越しになる多くのお客様が近隣の圏域市町村へ観光に訪れることが予想されるところであります。ぜひ圏域一丸となって緑化フェアをPRし、この圏域の観光事業の活性化に寄与したいと考えているところであります。特に圏域内の住民の皆様にはぜひともご来場いただき、緑化フェアを通して花と緑の美しさや、あるいはこの圏域の自然の豊かさを再発見し、圏域内を周遊するきっかけになればと考えているところであります。

最後になりますが、今回の緑化フェア開催を、この圏域の美しく豊かな自然や、その自然から恵まれた特産品などといった魅力的な観光資源を再発見する1つの契機として捉え、今後は新しい域内観光の推進へ発展させていければと考えているところであります。コロナ禍において、これまでとは違う新しい観光のスタイルが求められている今、ポストコロナを意識した圏域の豊かな自然を生かしたマイクロツーリズムの推進が必要なのではないかと考えております。ガーデンツーリズムでありますとか、あるいはサイクルツーリズム、グリーンツーリズムなど、圏域の美しい自然を存分に満喫できるような域内観光の推進が重要と考えているところであります。この圏域をさらに魅力・活力あふれる圏域とするために、今後は圏域の豊かな自然を生かした域内観光の推進について、圏域内市町村が連携して取り組んでいくことを提案したいと考えております。連携事業の具体的な内容については、本会議でのご意見などを踏まえまして、今後実務者会議等でご協議いただければと考えております。ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

以上、提案の説明をさせていただきました。どうぞよろしくお願いいたします。ありがとうございました。

○小角局長：

原田市長様、ありがとうございました。

それでは続きまして、南幌町・大崎町長様から議題のご提案をお願いしたいと存じます。

○大崎町長：

南幌町長の大崎でございます。まずもって圏域の首長の皆様には、平素より様々な機会でご支援を賜っておりますことに心から感謝と御礼を申し上げます。また、本日こうして発言機会をいただきましたことに、重ねてお礼を申し上げる次第でございます。それでは、南幌町からの提案型議題につきましてご説明させていただきます。

本町は、近隣自治体と比較して将来的に高齢化比率の上昇スピードが著しく高く推移することが示されておりますことから、「30年後も子ども達といる風景」という将来像を掲げまして、子育て支援に対する施策に力を入れているところでございます。そのような中で、子育て環境の整備や交流人口の拡大によるまちの魅力向上を図る取組の1つとして、子育て世代をターゲットとする誘客交流拠点施設の建設を予定しており、2023年5月のオープンを目指し、計画を進めているところでございます。

本施設は、「遊び場が広がる まちのリビングルーム」をテーマに、季節や天候に左右されることなく、子どもたちがいつでも伸び伸びと元気に遊ぶことができる遊戯エリアをメ

インとした室内遊戯施設です。たくさん子どもたちや親御さんにとって居心地がよく、自由に楽しめる施設であるとともに、障がいのある子どもたちにとってもストレスなく遊べる空間となるように遊具や設備を設置していく予定でございます。また、フリースペースや体験エリアなどを活用し、子どもたちだけではなく、多世代の憩いの場、交流の場となるような施設を目指して計画を進めております。

本施設は、本町の市街地に位置する都市公園内に整備するものであり、施設と屋外の公園を連動させ、ふだん使いだけではなく、様々なイベントを開催し、にぎわいが生まれるものにしたいと思っております。そのためには、南幌町民だけではなく、「さっぽろ連携中枢都市圏」を中心とする近隣市町村の多くの方々にもご利用いただき、子育て世代の圏域内周遊につながる取組として、圏域一体となって活用できればと考えている次第でございます。

圏域の中長期的な将来像を示す「さっぽろ連携中枢都市圏ビジョン」においては、若年層の道外流出の防止や、道外からの人口流入を促すことなどの課題が挙げられております。このため、圏域内市町村が持つそれぞれの魅力を掛け合わせた取組により、ヒト、モノ、カネ、コトを呼び込むとともに、密接な連携と役割分担を行うことで、住みたくする人が多くなるような「選ばれる」圏域を目指し、現在様々な取組を行っているところかと思っております。

そのような中で、今回ご提案させていただく取組として、現在行っている圏域での取組に加え、圏域内市町村の皆様が有する子育て関連施設などの子育て世代にとって魅力的な、多くの資源を活用した連携の強化を図らせていただければと思っております。具体的には、まずは圏域内の子育て世代にとって魅力的な情報を改めて整理し、積極的な情報発信をしていければと思っております。このような取組が子育て世代の圏域内周遊につながり、圏域内に子育てしやすい環境が整っているということが改めて住民の皆様にも伝わるものと考えております。

また、子ども時代の圏域内での生活や楽しんだ記憶が、大人になったときに圏域内への定住につながることで、また子育て世代になったときに圏域内に戻ってきてもらえるような好循環を生み出すことができると考えております。今後実務者会議などを通して具体化に向けた協議をさせていただきたいと思っております。現在、そして30年後に「選ばれる」圏域となることを目指す取組として、圏域内市町村の皆様のご協力をいただきながら進めていければと思っております。

長くなりましたが、ご理解とご協力のほどどうぞよろしくお願い申し上げます。

○小角局長：

大崎町長様、ありがとうございました。

4 意見交換等

○小角局長：

それでは、意見交換に入らせていただきたいと思います。

今回は、本市からご説明差し上げた取組概要等に加え、恵庭市様、南幌町様からも議題のご提案をいただいておりますので、これらに対するご意見をいただければと思っております。また、各市町村におけます現状の課題、今後のさっぽろ圏に対するご期待等もございましたら、ぜひご発言いただければと存じます。

なお、議題のご提案をいただきました恵庭市・原田市長様、南幌町・大崎町長様につきましては、適宜ご発言を賜ればと存じます。

では、大変恐縮ではございますが、まずは小樽市・迫市長様から順に時計回りにご発言をお願いしたいと存じます。

それでは、小樽市・迫市長様、よろしくお願ひいたします。

○迫市長：

小樽市長の迫でございます。今日は発言の機会をいただきまして、感謝申し上げます。

小樽市は、「さっぽろ連携中枢都市圏」には後志から参加させていただいておりますけれども、この間様々な取組に本市も参画させていただいておりますことに感謝申し上げたいと思います。

今月に入りまして新型コロナウイルスの感染も落ち着きまして、緊急事態宣言も解除され、徐々に日常を取り戻しつつありますけれども、感染の再拡大、第6波に備える心構えは皆さん共通ではないかと思っているところでございます。

先ほど事務局のほうからご説明いただきましたけれども、新たな重点施策として幾つか新たな事業をご紹介いただきましたことには感謝を申し上げたいと思っております。

地域課題からお話をさせていただきたいと思っておりますけれども、令和2年度の小樽市の観光入り込み客数は、前年度と比較いたしますと37%にとどまったところであります。改めまして観光客という数の面から、あるいは消費額の面からも、これまでインバウンドへ依存していたことを実感しているところでございます。インバウンドの回帰には数年かかるという見方が一般的でありますけれども、当面国内ですとか道内客による週末観光が中心にならざるを得ないのではないかと考えているところでございます。

昨年もこの会議の中で話題になったと記憶いたしておりますけれども、圏域内にある公園ですとか、あるいはキャンプ場、道の駅、こういったもののPRに努めていくことと、先ほど原田市長の紹介もございましたけれども、緑化フェアなどのイベントの連携を通じて周遊性ですとか回遊性を高めていくことがこれまで以上に大切になってくるのではないかとと思っております、原田市長がお話しされておりました域内観光の推進には共感をするものであります。

また、先ほど事務局のほうからご説明いただきましたポイントアプリにつきましては大変有効だと考えておりますし、コンテンツの充実に努めていくということが大切だと思っておりますので、私どもといたしましても普及に努めていきたいと考えているところでございます。

それから、将来を担う人材の教育・体験機会の減少の中で、ご説明がありましたけれども、道内初の取組といたしまして札幌市に開設されます公立夜間中学校につきましては、様々な理由により就学機会を得られなかった方たちに学びの場を提供するということにつきまして、行政として非常に意義のあることだと考えておりますし、本市も含めて通学圏を圏域全体に拡大して実施していただけるということで、小樽市としましても就学を希望する市民の後押しをしていきたいと考えているところでございます。

最後になりましたけれども、南幌町様からご提案のありました圏域内の子育て環境施設の連携につきましても大いに参考にさせていただきたいと思っておりますし、正直申し上げまして大変立派な施設で羨ましく思っているところでございますけれども、圏域内の連携にさらに努めていければと考えているところでございます。

私からは以上でございます。ありがとうございます。

○小角局長：

迫市長様、どうもありがとうございます。

続きまして、岩見沢市・松野市長様、よろしく願いいたします。

○松野市長：

岩見沢市の松野でございます。今日はいろいろ聞かせていただいた中で、また連携中枢都市圏の特に札幌市さんを中心とした事業の取組あるいは方向性、大変ありがたく拝聴させていただきました。今後ともしっかりと連携をさせていただきたいと思っております。

また、新たなご提案として恵庭市の原田市長さん、それから南幌町の大崎町長さんから、圏域の連携、城内観光という言葉もございましたが、特に周遊というキーワードで大変有意義なご提案をしていただいたと考えてございます。

まず、恵庭市さんからのご提案にありました「ガーデンフェスタ北海道」でございますけれども、実はこのガーデンフェスタには当市のいわみざわ公園も協賛会場になっておりまして、ここは約630種、8,800株のバラが咲き誇る、道内では最大級のバラ園でもございます。

ちょうどガーデンフェスタが開催されます6月から7月にかけては、当市におきましてもローズフェスタを開催しておりまして、バラ園が1年の中で一番美しい時期でもございます。

資料を拝見いたしました中で、ガーデンフェスタには道内外から約30万人の来場者が見込まれるとのことでございますし、特にこのコロナ禍にあってポストコロナを意識したマイクロツーリズムの推進というご指摘がございました。

コロナ禍により人々の日常生活、生活様式が大きく変化する中で、私自身も常々マイクロツーリズムの推進、あるいは城内観光はこれからの圏域内の活性化に向けた1つの鍵になるとも考えておりまして、当市としてもぜひ協力をさせていただき、岩見沢の市民も含めまして、恵庭市で開かれるガーデンフェスタを契機に花と緑の周遊ネットワークの魅力、あるいは地域の魅力をたくさんの方々に知っていただきたいと考えているところでござい

ます。

また、南幌町さんからご提案のありました圏域内の子育て環境の整備につきましても、圏域としての子育て環境を整備することから「選ばれる」圏域を目指す、すばらしいビジョンだと思っております。

少子高齢化は全国的にも進行しているわけでございますし、今後も長期的な人口減少が見込まれるわけでございます。多くの自治体が高齢化よりもむしろ少子化対策を地域課題として位置づけ、子育て環境の整備に取り組んでいくことと思っております。

つい先日でございますけれども、岩見沢市が北大COIと共に取り組んでおります、妊娠中から出産、子育てを継続的にフォローすることで低出生体重児、かつては未熟児というふうに言われておりましたが、2,500グラム未満で生まれてくる子どもたちの数の大きな減少を図る取組がプラチナ大賞をいただいたところでございます。

子育て支援は、当市も重点的に取り組んでいる分野でもありますし、またこうした取組は1つの自治体が単独で取り組むよりは、複数の自治体が協働して連携をして、より広域的に子育て環境を向上させていくことが効果的であると考えてもでございます。

また、圏域内にはソフトあるいはハードを含めまして、個性的で魅力的な子育て資源が多くあると考えております。子育てに関して圏域内市町村の連携が強化されるということは、圏域の将来にとっても大きな意義があるものと考えております。

またさらに、ご説明にありました圏域内の周遊につきましても、子育て世代はお子さんを含む家族単位で周遊されることが多いかと思っております。自然や環境、あるいは観光、あるいはスポーツや食など、ご家族にとって圏域内の新たな魅力の発見につながるものと大きく期待をしているところでもございます。

今回ご提案のありました誘客交流施設は、圏域内ネットワークの核の1つになるものとも認識しておりますので、当市もぜひこのネットワークに参加させていただいて、共に圏域の子育て環境の向上にさらに取り組んでまいりたいと考えているところでございます。

以上でございます。

○小角局長：

松野市長様、どうもありがとうございました。

続きまして、江別市・三好市長様、よろしく願いいたします。

○三好市長：

江別市の三好でございます。先ほど「さっぽろ連携中枢都市圏」ということで、新たな事業展開の説明がございました。その中で、小樽市さんも発言されておりますけれども、夜間中学校の取組といいますのは、再び学びたいという人たち、さらには高齢化にとりまして、以前は学ぶ機会を逸したけれども、もう一度学びたいという方たちも増えてきておりますので、そういう意味からいきますと大変ありがたい取組でございまして、私も全面的に協働しながら一緒になって取り組んでまいりたいと考えておりますので、よろしくお願い申し上げたいと思っております。

また、アプリの話もございました。アプリを使って圏域の中で連携するという取組は、1つの道具で連携できるのではないかと考えてございまして、この圏域の中にはおいしいものがたくさんありますし、特色あるものもございます。そういうものも含めて買物から次のステップにつながるような、連携につながるようなことを期待したいと思っております。これも高い評価をさせていただきたいと思っております。どうぞよろしくお願い申し上げます。

先ほど恵庭市の原田市長さん、南幌町の大崎町長さんから提案ございました。いずれの提案も大変関心が高く、この圏域にとりまして特色のある取組になるものと考えてございます。恵庭市さんからご提案がございました、特に私も関心がございますのはマイクロツーリズムでございます。

コロナ禍で、なかなか遠くに行けない、しかしながら地域にはたくさんの特徴があって、気づかないものがたくさんあるとよく言われております。そういうことがマイクロツーリズムで対応できるのではないかと。その1つのきっかけとして、恵庭市さんの緑化フェアを活用してのスタートも私はよろしいのではないかと考えてございます。私どもも観光振興は周遊観光と決めてございますので、ぜひ一緒になりまして協力させていただきたい、そして多くの市民の参加をさせていただきたいと思っておりますので、よろしくお願い申し上げます。

また、南幌町さんから提案がございました室内遊戯施設の設置、子どもの遊び場ということでございますけれども、実は江別市はお母さんたちからの強い要望がありまして、雨の日でも、さらには雪の日でも、はいはいして遊べる場所をつくってほしいという要望がございまして、平成25年にスーパーの2階に180坪程度の遊び場をつくりました。初年度は大体10万ぐらい、翌年からは大体9万ぐらいでございますけれども、年によって数字は違いますけれども、大体6割ぐらいが市外の方でございます。

市外の方に利用していただきまして、江別市内を知っていただくことももちろんありますけれども、お母さん同士の地域を通じての交流ということがございまして、そこでは子どもの遊び場だけではなくて、お母さんたちの研修の場、さらには就労機会の場も提供しております。そういう意味でいきますと、江別市民だけではなくて、市外の方と交流しながら、子どもを通じて連携できるといったこともございます。

また、今回の南幌町さんの取組は大型の取組でございまして、江別市にはない魅力がたくさんできるのではないかと考えます。そうなりますと、施設を使っての連携、江別市にはない南幌町さんの施設を使っての遊び、またはお母さん同士の取組の連携ができるのではないかと期待してございまして、そういう意味ではお互いに補完しながらできるということでございますので、私どものまちとしても一緒になって連携して進めさせていただければと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

以上でございます。

○小角局長：

三好市長様、どうもありがとうございました。

続きまして、千歳市・山口市長様、よろしく願いいたします。

○山口市長：

千歳市です。連携中枢都市圏としていろんな事業に取り組んでいただいていること、大変すばらしいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

中でも夜間中学は、具体的に当市では70代の方が入学を希望されているとも聞いておりますので、ぜひ入学できればいいなと思っておりますので、よろしく願いいたします。

恵庭市の緑化フェアは、大いに期待しています。大成功間違いないと思いますが、恵庭市のご苦勞に心から敬意を表したいと思えます。もともと千歳と恵庭は明治まで一緒のまちでしたから、いわゆる兄弟分のまちでありまして、今日では通勤、通学、買物の分野では同じ生活圈域の位置づけにありまして、それがために3年ほど前にお互い広域の連携をしようということで、事業連携の覚書を交わして今日に至っております。この緑化フェアもお互いの連携の取組の1つとして、当市でも最大限のご協力をさせていただきたいと思っております。

南幌町さんの交流施設も、楽しみにしています。当市もサケのふるさと千歳水族館というのがあります。それから、先頃世界遺産になりましたキウス周堤墓群もあります。こういった社会体験施設と連携した動線づくりができればいいかなとも思っていますし、またそういう取組がこれからは大いに必要だと思っております。いわゆるサードプレイスというのでしょうか、そういう交流ゾーンを望まれている市民が多いという状況にありますので、そういった連携をこれからも進めていきたいと思っております。

当市の課題をあえて1つ申し上げれば、新千歳空港の停滞であります。これは一事業者がコロナの影響を受けているということではなくて、空港は北海道の発展の基盤をなすものでありますし、観光やビジネスにとっても空港利用者が減るとことは経済の低迷につながっているわけでありまして。それは単に経済的なことだけではなくて、当市の例でいいますと、空港が停滞することによって人口が減りました。国際線はいまだにゼロですから、そうすると空港関係者の一時帰休とか、あるいは職場転換とか、あるいは新規採用を止めるということで縮小されています。空港で働いている人は大体9,000人いるのですが、9,000人のうち6割ぐらいは市内に住んでいただいておりますが、その方々が一時的に帰休されたことで人口が減っているという状況にあります。恐らくこれは恵庭市さんも影響を受けていると思えますが、そういう具合にまちづくりの根幹を揺るがすような大きな影響を受けているところであります。

したがいまして、空港の活況を目指して、我々は空港所在地として国に働きかけを行うなど、経済界と歩調を合わせながらしっかりとした取組を進めていかなければならないと思っておりますので、圏域としても同じ課題を共有していただいて、お力添えをいただきたいと思っております。

以上です。どうぞよろしく願いいたします。

○小角局長：

山口市長様、どうもありがとうございました。

続きまして、北広島市・上野市長様、よろしくお願ひいたします。

○上野市長：

北広島市の上野でございます。いつも大変お世話になっております。恵庭市さんで行われます「全国都市緑化北海道フェア」に係る市町村連携事業について、隣町であるということと、当市におきましても花を通した美しいまちづくりを進めているところでありまして、このフェアには市を挙げて参加させていただくこととしているところでもあります。

ステージイベントで郷土芸能のふるさと太鼓を披露させていただくほか、ブースを出展し、市の特産品等の飲食販売、物販、市町村PRの実施を予定しているところでありまして、コンテナガーデンの出展も予定しているところでもあります。全国、全道から多くの方が来場される大きなイベントでありますので、連携いたしまして、いい取組にしていきたいと思いますと考えているところでもあります。

また、南幌町さんの誘客交流拠点施設に係る圏域の連携ということで、当市は南幌町さんにも隣接しているということで大変期待しているところでもありますけれども、当市におきましても年々人口が減少しているところでありまして、高齢化も進んでおり、亡くなる方が多いということで自然減が進んでいる状況であります。

子育て環境の整備につきましては、本市にとっても課題の1つでありまして、隣接しております南幌町さんに室内、屋外ともに子どもたちが伸び伸びと遊ぶことができる施設ができることは大変期待をしているところでもあります。2023年3月に開業を予定しておりますボールパークにおきましても、子どもたちが遊べるエリアが設置される予定でありますことから、さっぽろ圏の各市町村にある子育て関連資源を活用し、圏域として子育て世代の定住、また周遊の促進が図られるのではないかと大変期待しているところでもあります。本市としましても、子育て世代にとって魅力的な情報の整理、発信、周遊につながる取組等を連携して進めてまいりたいと考えております。

連携中枢都市圏の取組に関しましては、一部KPIが未達成の事業もありますが、多くは達成済みということで、新型コロナウイルス感染症の影響もある中、着実に事業が進められているのではないかと考えております。また、本日新たなパートナー企業との連携が予定されているということではありますが、昨年連携しました企業との取組も進んでいるところでありまして、こうした民間事業との連携は、圏域全体の活性化に寄与するものであると考えております。

引き続き着実に事業を推進していかなければなりません。新型コロナウイルスの影響、コロナ禍での広域連携のあり方を検討していく必要もあり、ウィズコロナ、アフターコロナに対応した事業の推進、事業の見直しなど、柔軟かつ的確な事業推進の判断が求められているものと考えております。

連携中枢都市圏の新たな取組といたしまして来年4月に公立夜間中学校が開校されます

が、各市町村単独で設置することはかなり難しいものと考えており、圏域住民も利用できる仕組みは、教育機会確保の観点からも大変意義深いものだと考えているところであります。

圏域の周遊活性化に向けても、昨年度の協議が形となりまして新たな取組が予定されておりますが、本市のように観光資源があまり多くないまちにとって、圏域内周遊の中で1、2か所立ち寄っていただくという視点は大変重要であると考えておりまして、今後も自転車を使った周遊等、より一層連携して取組を進めてまいりたいと考えているところであります。

圏域周遊、移動という面で見ますと、地域公共交通の役割が重要になると考えております。公共交通に関しましても今年度から新たな取組として、北海道と連携し、広域的な地域公共交通計画策定に向けた協議が本格化しているということで、大変関心を持って期待をしているところであります。

最後になりますけれども、いつの時代にも大きな困難の中で新たなイノベーションを生み出す発想、また価値が創出され、それが社会経済や市民生活を支える基盤になっていると考えております。新たな産業、ビジネスが生まれる可能性を秘めており、こうした分野への支援についても連携中枢都市圏として役割を持って進めていくことを期待しております。

以上であります。

○小角局長：

上野市長様、どうもありがとうございました。

それでは続きまして、石狩市・加藤市長様、よろしく願いいたします。

○加藤市長：

どうも皆さん、お世話になっております。石狩市の加藤でございます。まず冒頭、皆様方からもご発言のありました公立夜間中学校の関係では、札幌市さんには感謝申し上げます。現在私どもが聞き及んでいるところでは数名通学希望者がいるということで、このような事業については教育の機会を与えていただいたことに深く感謝申し上げます。ありがとうございます。

恵庭市さんからご説明いただきました緑化フェアの関係であります。現在来年に向けて職員の皆様が様々な企画、調整等にご努力されているかと思えます。敬意を申し上げます。お疲れさまです。

私ども石狩市は、メイン会場でのブースの出展と併せて、石狩市発祥の地である本町地区のはまなすの丘公園を協賛会場として予定しているところであります。はまなすの丘公園は、180種に及ぶ海浜植物が自生しておりまして、約46ヘクタールの面積のうち3分の1が海浜植物の保護地区に指定されているところであります。

ちょうどその時期はハマナスが咲き乱れる季節であります。豊かな自然など、圏域内の魅力的な観光資源を再発見するために周遊観光を促進していきたいと思っております。

また、ご案内のように私どもは石狩鍋を中心とするサケ文化の自治体であります。石狩川のつながりというものと同時に、歴史や文化でも深いつながりを持つ「さっぽろ連携中枢都市圏」の中で、海産物などの食を通じた域内観光の促進にもつなげていければと考えております。

参考までに、現在まだサケ漁が行われております。今年は非常に大漁でありまして、直近5年間で平均すると約230%と増加しております。昨年度も大分回復したのですが、昨年度よりも約133%という形で地元も活気づいているところでもありますので、機会があれば食していただければと思っております。

また、この連携中枢都市圏におきましてまちづくりパートナー協定を締結しているローソンさんが、今月の19日から各地域でなじみのあるお鍋をお楽しみいただける、ご当地鍋シリーズの第1弾として「北海道産秋鮭の石狩鍋」を発売しております。この商品につきましては、石狩観光協会、石狩鍋普及団体の「あき味の会」というのがあるのですが、それらが原料の選定から味つけまで関わっている本物の味に仕上がっております。ご自宅にいながら石狩市を感じていただき、今度は石狩のお店で食べてみたいという気持ちになっていただければ、さらなる周遊観光につながるのではないかと考えております。

次に、南幌町さんからご説明いただきました誘客交流拠点施設についてであります。連携中枢都市圏ビジョンにおきまして、圏域内の魅力を掛け合わせる取組が必要との認識のとおりだと感じております。

私どもも現在、手稲街道沿いに来年の秋開設に向けて、都市公園内において中高生の利用も想定した大型児童センターや放課後児童クラブ、また子育て支援センターを併設した「ふれあいの杜子ども館」の建設に着手しております。

この構想は、子ども議会という、中学生、高校生と理事者、市の職員との議会なのですが、6、7年前にその中で子どもたちから提案されたものを前田岡市長時代に具現化し、着手しているものであります。まさに子どもの居場所と子育て世代の交流の場を創出するための事業であります。

今後とも子どもの成長を切れ目なく見守り、支え合うことのできる地域づくりを、家庭、地域、事業者、さらには「さっぽろ連携中枢都市圏」の自治体の協働の下、一層推し進めていきたいと感じております。

その他、本市はサイクルツーリズムを推進しております。道の駅を含めた周遊観光の確立、交流人口の拡大を図っております。自転車の活用については、環境負荷の軽減、健康増進など様々な効果が期待されております。

現在、本市、当別町さん、新篠津村さん、増毛町さんで取り組んでいる石狩北部・増毛サイクルツーリズム推進協議会におきまして、石狩北部地区の周遊促進を図っておりますが、今後は「さっぽろ連携中枢都市圏」を含む南部と連携した取組を推進させていただければと思っております。どうぞよろしくお願いたします。

以上であります。

○小角局長：

加藤市長様、どうもありがとうございました。

続きまして、当別町・後藤町長様、よろしく願いいたします。

○後藤町長：

当別町の後藤でございます。この8月に前任の宮司町長の後を受け継ぎまして、この場所に参加させていただいております。以後よろしく願いいたします。

ご意見をいろいろとお聞かせいただいた中で感じたことを申し上げさせていただきたいと思っております。まず恵庭市さんの緑化フェアは、マイクロツーリズムということですが、コロナ禍の中であって人の移動が制限されていて、ようやくそれが解除されることとなります。恐らく第6波も拡大はしていくのしょうけれども、私はそれほど重症化する人は多くないのかなと踏んでいるのですが、経済を回復する意味でも域内の観光をしっかり充実させていくことが重要かなと思っています。来年度のうちの取組といたしましても、いわゆるウィズコロナあるいはアフターコロナを見据えて、イベント等をどう復活させていくか、その対策にどう万全を期していくかということ部局のほうに指示を出しております。

そういった点では、来年6月から7月にかけてこういう取組を圏域内でしていただけることはありがたいことで、特に当別町では7月初めは亜麻の花が咲く頃になりますので、そういった点で連携させていただくとか、あるいはまた当別町は花卉の生産が道内で1番、2番となっていますけれども、その生産組合が来年50周年を迎えるということもありまして、そういったところと連携させていただくですとか、いろいろと連携させていただくところがあるのではないかと思いますので、同じ圏域の構成員として、成功裏に導いていただくためにもご協力させていただきたいと思っております。

あと、南幌町さんの子育て環境の整備は、よだれが出るぐらい羨ましい事業だなと思って聞かせていただきました。子育てにつきましては、それぞれの市町村で環境整備をしておりますが、当別町としても南幌町さんの事業に協賛させていただきましても、全体としてできる教育環境づくりを進める必要があるのではないかと私は思っています。皆さんはそれぞれ役所の中も外もDXを推進されていると思っておりますけれども、圏域内にも市のほうでいわゆる電子図書、デジタル図書を入れていただいているところがございます。将来的にデジタル図書をそれぞれに入れていただく中で、持っている蔵書をバラエティーに富ませていって、それを相互に貸し借りができるようになりますと、圏域としてもすごい力を持つようになるのではないかと考えております。

デジタル化につきましては今後いろいろと出てまいります、電子図書のことは今申し上げましたけれども、プログラミング教育が小学校でも中学校でも始まりまして、今SDGsを意識した教育が始まろうとしています。今、特にコロナ禍ということもありまして、授業自体もいわゆるフェース・ツー・フェースではない授業が進んできていますので、例えば誰もが知っている講師が、子どもたちにとって私の先生になったというようなことも、1つのインパクトを与える教育効果があるのではないかと考えています。そのことは1つ

の圏域ですとか1つの学校だけではできませんので、先ほど札幌コンサートホールKitara（キタラ）のお話もありましたけれども、それと似たように、デジタルで圏域の教育を変えていく取組も将来的にさせていただければありがたいと思っております。

あと、これは私は前町長から引継ぎを受けていなかったのですが、去年の中核都市圏の新たな取組の中で、宮司町長のほうからいわゆる地域公共交通計画の策定に向けての取組が、既にタスクフォースを立ち上げていただいていると聞いております。北海道を牽引していくためにも基礎的な公共インフラを整備していくことは大事ですので、今後も前向きな議論をお願いしたいと思っております。よろしくお願いいたします。

以上でございます。よろしくお願いいたします。

○小角局長：

後藤町長様、どうもありがとうございました。

では続きまして、新篠津村・石塚村長様、よろしくお願いいたします。

○石塚村長：

新篠津村の石塚です。よろしくお願いいたします。まず、夜間中学は、皆さんのほうからいろいろ出たのですけれども、実は新篠津でも一昨年でしたか、住民との懇談会の中で夜間中学を何とかしてくれませんかという要望があったのです。もちろん私ども単独でできるようなものでもありませんし、何とか大きな広域圏の中でやらなくてはいけないなど思っていたのですが、今回札幌市さんのほうで開校してくれるということで大変喜んでおります。実は不登校の子の親からの要望だったので、何とかしたいという思いはあったのですけれども、なかなかできませんでした。今回こういう形で本当に助かっておりますし、これからもできればこの夜間中学がそういう子どもたちの受皿になっていただきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

それと、恵庭市さんの緑化フェアは、私も期待しております。というのは、私どもは観光は単独でどうのこうのというのではなくて、例えば札幌の雪まつりですとかよさこいですとか、大きなイベントの中で私どもに寄ってくれるということが多かったものですから、コロナで雪まつりも中止、よさこいも中止ということで、今うちの観光施設は大変困っております。来年の緑化フェアには期待しておりますし、先ほど北広島市の上野さんから、再来年にはボールパークもオープンするというので、大変期待しております。

私どもも何とかしたいということで、今年ちょっとした試みで星座観測所というか場所を、簡単なものなのですけれども、芝生のところにベンチと、季節によってこういう星座が見えますというのを2回、8月と10月にやったのですけれども、大変好評でありました。これを何とかしたいなど思っていたところ、ある星座の好きな方から、買えば1,000万もするような大型の天体望遠鏡を寄贈したいという話がありまして、来年度に向けて何とかそれを物にしたいということで計画を立てているところなのです。そういうふうに、できることからやっていかなければならないですし、圏域の皆さん方それぞれが持っている観光資源というのは違いますので、それをうまく組み合わせることによって圏域の中の観光が

魅力的なものになるのではないかと私は思っております。これからもそういう形で連携しながらやっていくことによって、また観光も伸びていくのではないかと考えております。

それと、先ほど石狩市さんからもありましたとおり、サイクリングも3年も4年も前からやっていて、今年辺り盛大にと思っていたのがコロナでなかなかできなかったのですが、これは密にならないで家族でできるということもあります。どちらかというとな北石狩の地区は交通量も少ないですし、特に私どもは平たんなところですので、小さな子どもも安心してサイクリングできることが利点だと思っております。恵庭市さんや北広島市さんにもサイクリングロードがありますので、今後それらと連携しながらできればなと思っております。

南幌町さんの室内遊戯施設は、私も大変羨ましく思っております。私どもと岩見沢市さんは、この圏域の中では1、2番の豪雪地帯でありまして、冬場に子どもたちが安心して遊べる場所というのは正直ありません。特に外ではなかなかできないものですから、こういうものがあれば子どもたちも喜んで遊んで学べて、そして健康にも役立つということで大変いいことだと思っております。私どもから南幌町さんまでは車で二、三十分で行ける距離ですので、大いに活用させていただきたいと思っております。

先ほど言いましたとおり、それぞれが持っているいろんな施設を利用しながら連携することによって、魅力的な圏域内のまちづくりができるのではないかと考えておりますので、これからもよろしくお願ひ申し上げたいと思ひます。

以上でございます。

○小角局長：

石塚村長様、どうもありがとうございました。

それでは続きまして、長沼町・齋藤町長様、よろしくお願ひいたします。

○齋藤町長：

長沼町の齋藤でございます。いつも大変お世話になっております。恵庭市さん、また南幌町さんからご提案のありました件につきまして、両提案とも本町として積極的にご協力させていただきたいと考えております。

まず、恵庭市さんのご提案の件ですけれども、恵庭市さんは長沼町に隣接のまちでもございます。本町にも道の駅がございますし、温泉、キャンプ場などもあるものですから、開催期間中はそういったところも含めて周遊についても大きく期待させていただいているところでございます。

長沼町は、位置であるとか、札幌市さんとの距離であるとか、なかなか皆さんに認知されていない部分も多いものですから、これがぜひPRの機会となればと考えているところでもございます。

次に、南幌町さんのご提案の件ですけれども、本町においても児童センターなどを新設いたしまして子育て支援を推進しているところでございますけれども、こういった圏域での取組によりまして、子どもや親の世代も含めて周遊、交流に大変大きくつながるものだ

と思っております。

また、全天候型ということで、公園が利用できない冬期間の利用にも大きく期待をしているところでございます。将来的には圏域内の定住化、また人口流出の防止にもつながるのではないかとということで、これにつきましても期待をさせていただいているところでございます。

次に、全体についてなのですが、まずレシートの買取アプリの件です。これを用いました周遊活性化策につきましては、購買意欲の向上、また地域経済の活性化につながるものだと思います。これについてもその効果に大きく期待をさせていただいております。

長沼町では、道央圏連絡道路が南長沼ランプ、道の駅のところまで昨年開通したところでもございまして、これによりまして千歳市方面からの利便性が大変高まっております。道の駅の隣接地ではホテルの建設も進んでおりまして、こちらも来年オープンのご予定でございます。また、本町の温泉だとか、そういった宿泊施設を活用した周遊策などについてもぜひご議論、ご検討いただければと考えているところでもございます。

最後に、公共交通についてでございますけれども、長沼町は鉄道がないまちでございます。よって、民間のバスに頼るところが大変大きいのですが、今後高齢化等でさらに交通弱者が増えていくことも大きく懸念されております。人の流れが停滞しないように、今後も圏域全体で公共交通等についてご議論いただければと思っております。どうぞよろしくお願いたします。

以上でございます。

○小角局長：

齋藤町長様、どうもありがとうございました。

改めまして、その他ご意見等のある方はいらっしゃいますでしょうか。それでは、恵庭市・原田市長様、よろしくお願いたします。

○原田市長：

各市町村から温かいお言葉をいただきまして、誠にありがとうございます。私どもの提案についてはご賛同いただけたのではないかと思います。本当にありがとうございます。

緑化フェアは北海道との共催であります。このフェアは単に私どもだけではなくて、北海道全体の活性化につながることを目指しております。

中でも圏域の豊かな自然を生かした域内観光を推進していこうという提案でありますので、引き続きご協議させていただければと思っております。どうぞよろしくお願いたします。ありがとうございました。

○小角局長：

どうもありがとうございました。

続きまして、南幌町・大崎町長様、よろしくお願いたします。

○大崎町長：

本町よりご提案させていただきました圏域内における子育て環境の整備に関する取組につきまして、首長の皆様よりご賛同いただきましたこと、厚く御礼を申し上げます。

圏域内の若年層流出という大きな課題解決に向けまして、「さっぽろ連携中枢都市圏」という大変力強いパートナーのご支援をいただきながら、持続可能なまちづくりを推進するための施策を進めてまいりたいと思っております。

今後の実務者会議の中で具体的な取組について協議が進められることと思いますが、住みやすい圏域、選ばれる圏域づくりにつながる1つの施策として実施していければと考えておりますので、引き続きご支援賜りますようどうぞよろしくお願い申し上げます。

○小角局長：

大崎町長様、どうもありがとうございます。

それでは、本日の意見交換全体を通して札幌市長の秋元より一言述べさせていただきます。

○秋元市長：

長時間にわたりましてご議論いただきまして、ありがとうございます。本日は、連携する市町村からのご提案ということで、恵庭市さん、南幌町さんからのご提案をいただきました。基本的な方向性は、皆さんと一緒にやっという形でご了解をいただいたと、思っているところでございます。

去年、今年と新型コロナウイルス感染症の影響で、国外はもとより、国内、道内においてもなかなか人の移動ができない状況が続きました。そういう意味では、それぞれ観光事業、そしてそれに関連して様々な影響が出ているであろうかと思っております。

ここに来てワクチン接種やいろいろな治療薬も出てきて、いよいよ来年は人のいろんな動きが出てくる、日常が戻ってくると期待をしているところでもあります。一方で、海外からのお客様はしばらく時間がかかるかと思っておりますので、そういう意味では国内、そして道内、域内の人の動きを活発化させていくことが当面必要なのではないかと考えております。

そういう意味では、来年恵庭市さんで行われる緑化フェアについては、今日各首長さんからもお話がありましたように大変期待しております。協賛会場も幾つかあるようでありまして、この時期は各自治体でもいろいろな特色のある花だったりガーデニングだったり、そしてまた何といたっても食の魅力もあろうかと思っておりますので、これをきっかけにしっかりと発信していきたいと思っております。

札幌は感染が多かったものですから、札幌市民には市外に出ないでくださいというお願いを随分してきました。そういう意味では市民も外に出たくてしょうがないという状況だと思いますので、来年は市外にもたくさん行ってくださいと言えるような状況になればなと思っているところであります。

そういう意味では、今日は私どもの夜間中学のお話もいただきましたが、南幌町さんからのご提案も含めて、みんなが全て同じように持つことができないものについて、域内の

それぞれ特色のあるものを共同で使い合い、施設だけではなくていろいろなネットワークをつなげていく必要があるのではないかと考えております。今日もいろいろなアイデアもいただきましたので、実務者レベルのいろいろな会議の中でこれを膨らませていけばきっといいものになっていくのではないかと考えております。

アプリの活用も、今いろいろなアプリができておまして、例えば、札幌市の市民向けに子育てアプリというのがあります。若い子育て世代の方へ情報提供をしているものですが、ここに周辺の自治体の施設だとかいろんなイベントのようなものも入れ込めば、札幌市民にすぐ伝わっていく、そのようなこともできるのではないかと考えているところであります。ぜひいろいろなアイデアを組み立てていければと思っております。

2023年には北広島市さんに大変すばらしいボールパークができますが、例えば工事中でも、もし可能であれば見学ツアーみたいなのも一緒に組み込んでいければ盛り上がってくるのではないかと思いますので、いろいろなアイデアを実務者レベルの中で少し積み上げさせていただきたいと思っておりますのでございます。

ちょっと長くなりましたけれども、今日皆さんからのお話をいただいて、まさに連携中枢都市圏の活動を具体的な形で発展させていける可能性があるかと再認識させていただきました。引き続きよろしくようお願い申し上げます。ありがとうございます。

○小角局長：

本日は皆様、どうもありがとうございました。本日、恵庭市様、南幌町様からご提案いただきました議題も含め、ぜひとも引き続き圏域としての連携を推進していくことでよろしくようお願いいたします。

ここで、本日オブザーバーとしてお越しいただいております北海道地域振興監の佐々木様より、本日の議論を通してのご感想等をいただければと存じます。佐々木様、よろしくようお願いいたします。

○佐々木地域振興監：

ご紹介いただきました地域振興監の佐々木でございます。本日はさっぼろ連携中枢都市圏関係首長会議にお招きいただきまして、ありがとうございます。

また、本日お集まりの皆様方には、特に北海道における様々なコロナ対策に対しまして特段のご理解とご協力をいただきましたこと、この場をお借りしまして感謝申し上げる次第でございます。おかげさまで皆様のお力によりまして、11月からステージⅠということでいろいろな制限が解除されて、我々のほうでも新しい旅のスタイルを全道展開していき、いよいよいろいろな方々のお金、そして人の流れが動き出すのかなというところでございますけれども、引き続き第6波を防ぐように慎重な気構えを持っていかなければいけないと思っております。

コロナ禍が非常に長引いた中において、大きな時代の変節を迎えているという意識で、我々道といたしましても総合計画あるいは地域総合戦略を見直すことをいろいろと進めさせていただいております。特に私たちが一番意識しているのは、これからのそれぞれの自

治体の行財政運営で、今後ますますの広域的な連携の役割をしっかりと私たちも認識していかなければならないのかなど。ご承知のとおり、今月21日でしょうか、旭川の圏域もさらに強化をしていくということで、連携中枢都市構想を宣言するという動きも出ています。北海道の中でも、規模の違いはありますけれども、圏域単位での連携を進めていこうとしている中で、まさしくそのトップを走っているこちらの連携中枢のいろいろなご意見を、本日興味を持ちながら聞かせていただきました。恵庭市様、南幌町様を初め、首長様方からいろんなお話をいただきましたが、新たな交流拠点をうまく活用しながら、特に子育て世代の周遊をしっかりと図っていく、そういう施設の連携を図っていくというようなお話もありました。人口減少が非常に厳しい中、安心して子どもを育てられる環境づくりをこの圏域はしっかりと担っているんだよというメッセージにもつながっていくのかなと思いますし、これがある意味、今低空飛行している出生率の向上にもつながっていくのではないかと印象を持たせていただきました。

いずれにしても、ほかの圏域の皆様方には羨ましがられるようないろいろなアイデアが本日いっぱい出てきました。私どもとしては、こういった圏域での連携のあり方、工夫、知恵をほかの圏域の方々にも情報提供させていただきながら、そして圏域と圏域を結ぶような取組、私どものほうでは北海道型の関係人口の拡充という言葉を使わせていただいておりますけれども、それぞれの圏域同士のつながりをしっかりと意識しながら、ポストコロナに向けての取組を進めさせていただきたいと思っているところでございます。

結びになりますけれども、「さっぽろ連携中枢都市圏関係首長会議」のこれからますますのご発展、そして本日ご参列の皆様方のご健勝を心からご祈念申し上げまして、私の言葉に代えさせていただきます。ありがとうございます。

○小角局長：

佐々木様、どうもありがとうございました。

それでは、最後となりますが、改めまして札幌市長の秋元より閉会のご挨拶をさせていただきます。

○秋元市長：

長時間にわたりありがとうございました。先ほどもお話し申し上げましたけれども、様々なアイデアをいただきながら、いろいろな連携の具体的な道筋も見えてきているのではないかと思います。定期的にこの首長会議を開催させていただいて、そこから出た内容については、具体的には各実務者の会議で詰めていただく形で進めていきたいと思っているところであります。そういう意味では、「『住みたくなる』『投資したくなる』『選ばれる』さっぽろ圏域」ということで、皆様方と連携を深めていければと思っているところであります。

また、本日は北海道から佐々木地域振興監にもご出席をいただきました。私どもも札幌圏域のみならず北海道全体の発展にこの活動をつなげていきたいと考えておりますので、引き続きご指導のほどよろしくお願い申し上げます。

それでは、次の予定もございますので、この会議につきましてはここで締めさせていただきます。ありがとうございました。

○小角局長：

皆様、どうもありがとうございました。

5 閉 会

○小角局長：

それでは、本日は長時間にわたりまして活発なご議論いただき、誠にありがとうございました。この後、この会場におきまして「さっぽろ連携中枢都市圏『まちづくりパートナー協定』締結企業との意見交換会」を開催する予定でございます。前段活発なご意見もございましたので、当初予定より15分ほど遅れまして、この後17時15分より開催させていただきますと考えております。引き続きよろしくお願いたします。

本日はどうもありがとうございました。